

おとめ ぶんらく

乙女文楽〈ひとみ座〉

乙女文楽とは

人形浄瑠璃文楽から派生した伝統人形芝居です。大正末から昭和の初めにかけて、文楽の人形遣い五世桐竹門造らによって誕生しました。

文楽では一体の人形を三人がかりで操る「三人遣い」が特色ですが、乙女文楽は人形の仕組みに工夫を施し、「一人遣い」で演じます。また女性ばかりで演じるのも大きな特色です。女性がひとりで遣うことにより、いっそうの細やかさと、写実性、スピード感が加わり、華やかな舞台を繰り広げます。



演目について

「義経千本桜」は、源平合戦の後日譚をつづった作品で、人形浄瑠璃の三大名作と謳われています。作品全体は、五段構成の長い物語で、本演目はその四段目にあたります。

上演場面は、肉親の縁薄く流浪する源義経と、亡き親を一途に慕う子狐のふれあいを描いた物語の一場面。

義経は兄源頼朝の不興を受け、吉野に隠れ住んでいた。恋人の静御前は家来の佐藤忠信を供に、義経を追って吉野山中にさしかかる。静御前は義経を想い、忠信は屋島の合戦で戦死した兄の様子を物語る。が、忠信にはひとつの秘密があった・・・

B U N R A K U

Profile ひとみ座乙女文楽



図：和氣瑞江

遣い方の図版

創始者のひとり桐竹門造の直弟子である桐竹智恵子に、40年以上にわたって教えを受け、プロとして活動する一座です。「ひょっこりひょうたん島」などで知られる人形劇団ひとみ座の女性座員が1967年から伝承し、本年50周年を迎えます。

日本国内はもとより、アジア、ヨーロッパ、アメリカと世界の各地で公演し、好評を博しています。

桐竹智恵子の他界後、文楽の一線で活躍する桐竹勘十郎の指導を仰いでいます。

photo 古屋 均



■問い合わせ：都筑民家園

TEL 045-594-1723 〒224-0028 横浜市都筑区大榎西2
(最寄り駅：横浜市営地下鉄センター北駅)